

第16回 木曾川上流自然再生検討会

議事要旨

日時： 令和5年10月5日（木）14：00～16：00

場所： 木曾川上流河川事務所

出席者：

| | |
|--------|--------------------------|
| 藤田 裕一郎 | 岐阜大学名誉教授(座長) |
| 大塚 之稔 | 日本野鳥の会 岐阜県 支部顧問 |
| 梶浦 敬一 | ぎふ哺乳動物調査研究会 代表 |
| 永山 滋也 | 岐阜大学 地域環境変動適応研究センター 特任助教 |
| 野平 照雄 | 自然学総合研究所客員研究員 |
| 水野 瑞夫 | 自然学総合研究所最高顧問 |

【議事】

(1) 第15回 自然再生検討会における委員意見について

事務局から、資料-2 を用いて、第15回自然再生検討会における委員意見に対する現在の対応状況や今後の対応方針について説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

(2) 報告事項について

事務局から、資料-3 を用いて、自然再生計画の進捗と今後の予定、ワンド等の水際湿地の再生（木曾川、揖斐川）、緩流域環境の再生（杭瀬川、伊自良川）、コアジサシの繁殖状況、流水環境の確保（南派川）、オオサンショウウオ対策 貴重種情報記載につき取扱注意 の実施状況やモニタリング結果、実施効果と課題等についての説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

(3) 次年度のモニタリング計画（案）

事務局から、資料-3 を用いて、次年度のモニタリング計画（案）についての説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

(4) その他

事務局から、樹木伐開にかかる猛禽類調査、R5 河川水辺の国勢調査（両生類、爬虫類、哺乳類）の調査結果（重要種・外来種）、自然再生計画の見直しについて説明があり、それらについての質疑の結果、内容が了承された。

以上の質疑における主な意見は以下のとおり。

【主な意見】

（ワンド等の水際湿地の再生（木曾川・揖斐川）について）

- ・ 近年の気温上昇に伴う水温上昇と動植物への影響について、調査結果等はあるか。
- ・ 夏場の高水温ではなく、冬場の高水温が翌年のイタセンパラの再生産や個体群サイズに影響

響する可能性もある。

- ・ 河床の低下につれて、全体的な水位標高の低下傾向や河道内の氾濫原の冠水頻度の低下傾向が続いている。この様な状況で、半分自然の営力を使った地盤の再生というものを目指していくという方向性でよい。掘削を面的に行うほうがよい。
- ・ ワンド毎の水質や底質の違い（例えば底質では砂や泥の成分、堆積の厚み等）とイタセンパラ生息に関連があるのではないか。
- ・ ワンドと流水部との間に高低差ができると、流入する土砂の内容に変化が生じる可能性がある。
- ・ これまでは約 200m ピッチの定期横断しかデータがなかったが、面的に周辺の状態を取られるようになってきたので、それらのデータを用いて平面解析や水理解析を行い、より細かい分析をお願いしたい。

(コアジサシの繁殖状況について)

- ・ 樹木伐開により砂礫河原を整備した場合、人や車が入らないような対策をしたり、シェルターなんかを置くような対策も実施してもらえるとよい。
- ・ 河川敷の車に、コアジサシが繁殖しているから乗り入れをご遠慮してもらえるように、啓発の意味でパトロールカーで周知してもらいたい。
- ・ 温暖化が進行している中で、コアジサシの繁殖する期間が、若干後ろにずれるとか、反対に前にずれる可能性はあるか。

(流水環境の確保（南派川）について)

- ・ 緊急 3 か年の対策で樹木伐開をして礫河原が増えたのであれば、礫河原を維持して河原に依存する植物だけでなく、コアジサシの営巣も考えてはどうか。

(次年度のモニタリング計画（案）について)

- ・ 環境省のレッドデータに記載のあるチスジノリとオオイシソウが、貴重種情報記載につき取扱注意 貴重種情報記載につき取扱注意 で確認されている。オオカナダモやカナダモの類の生育によるチスジノリへの影響が懸念される。木曾三川上流ではどのように考えているか。
- ・ 木曾川中流部のワンド等の水際湿地の再生で行う水位ロガーによる連続観測時に水温も観測してほしい。

(その他)

- ・ 木曾川中流部でのワンド再生が数年後に終わる予定になっているが、ここで終わるとこれまでの努力が水の泡になるので慎重に検討していただきたい。

以上